

第5回 全国高校生 手話パフォーマンス甲子園

手話パフォーマンス甲子園実行委員会

実績報告書

第5回 全国高校生 手話パフォーマンス甲子園

手話パフォーマンス甲子園実行委員会

実績報告書



- 主催/手話パフォーマンス甲子園実行委員会
- 共催/鳥取県、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会 ●特別協力/一般財団法人全日本ろうあ連盟
- 後援/内閣府、厚生労働省、文部科学省、米子市、手話を広める知事の会、全国手話言語市区長会、一般社団法人全国手話通訳課題研究会、一般社団法人日本手話通訳士協会、全国聾学校長会、全国高等学校文化連盟、社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団、社会福祉法人NHK厚生文化事業団、社会福祉法人全国社会福祉協議会、全国難聴児を持つ親の会、日本演劇教育連盟、日本障害フォーラム、日本赤十字社鳥取県支部、鳥取県青少年赤十字指導者協議会、朝日新聞社、毎日新聞鳥取支局、読売新聞鳥取支局、産経新聞社、日本経済新聞社鳥取支局、新日本海新聞社、山陰中央新報社、中国新聞鳥取支局、共同通信社鳥取支局、時事通信社鳥取支局、NHK鳥取放送局、BSS山陰放送、日本海テレビ、TSK山陰中央テレビ、テレビ朝日鳥取支局、鳥取県ケーブルテレビ協議会、エフエム山陰、FM鳥取、DARAZ FM

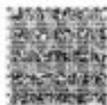
- 協賛/ AKASHI S.U.C. 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION
- 特別協賛/ 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

手話パフォーマンス甲子園実行委員会

〒680-8570 鳥取県鳥取市東町一丁目220番地(鳥取県福祉保健部 ささえあい福祉局 障がい福祉課内) TEL.0857-26-7682 FAX.0857-26-8136
facebook twitter LINE@ YouTube https://www.pref.tottori.lg.jp/koushien/ 手話パフォーマンス甲子園 後援



Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION



目次

- 開催概要..... 03
- 大会スケジュール..... 04
- 開会式..... 06
- 出演者紹介..... 11
- 表彰結果..... 12
- 表彰内容..... 14
- チーム演技..... 15
- ゲストパフォーマンス/大会公式応援ソング..... 25
- 閉会式..... 26
- 会場の催し..... 28
- 公式グッズ販売..... 30
- バリアフリー対策..... 31
- 交流会..... 32
- 予選審査会..... 34
- 広報..... 36
- 大会ダイジェスト番組..... 38
- 手話パフォーマンス甲子園実行委員会..... 39



記載されたQRコードを読み取る
と「手話パフォーマンス甲子園
☆動画チャンネル」で動画を視
聴することができます。



開催概要



● 目的

ろう者とろう者以外の者が互いを理解し共生すること
ができる社会を築く「鳥取県手話言語条例」の理念を
実現すべく、全国の高校生が手話言語を使った様々
なパフォーマンスを繰り広げる場をつくり発信すること
により、多くの人に手話言語の魅力や手話言語が優れた
意思及び情報伝達手段であることを実感してもらうと
ともに、手話言語とパフォーマンスを通じた交流の推進及
び地域の活性化に寄与することを目的に、「全国高校
生手話パフォーマンス甲子園」を「手話の聖地」鳥取県
で開催しました。

● 日時

平成30年10月7日(日) 9時～16時

● 会場

米子コンベンションセンター
(鳥取県米子市末広町294番地)

● 来場者

約2,000人

● 主催

手話パフォーマンス甲子園実行委員会

● 共催

鳥取県、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会

● 特別協賛

日本財団

● 特別協力

一般財団法人全日本ろうあ連盟

● 出場チーム

20チーム(22校)
※平成30年5月21日(月)から7月6日(金)まで参加チ
ームを募集したところ、全国28都府県から、62チーム(65
校)の参加申込みがありました。8月2日(木)から3日
(金)にかけて、審査員4名で動画視聴による予選審査
会を開催し、各地方ブロック枠5チーム(北海道・東北
ブロックからの選出チームなし)、得点順枠14チーム、
および初出場枠1チームの計20チームを選出しました。

● 皇室の御臨席

佳子内親王殿下に御臨席をいただき、おこたばを賜り
ました。



大会スケジュール



時刻	内容
9:00~	<p>開会式</p> <ul style="list-style-type: none"> オープニング映像 主催者あいさつ 特別協力団体あいさつ 特別協賛団体あいさつ 出場チーム紹介 優勝旗返還 選手宣誓 審査員紹介 審査方法紹介  
9:40~	<p>出場チームによるパフォーマンス(前半10チーム)</p> <ol style="list-style-type: none"> 琴の浦高等特別支援学校(鳥取県) 鳥取城北高等学校(鳥取県) 日本女子大学附属高等学校(神奈川県) 境港総合技術高等学校(鳥取県) ノートルダム清心高等学校(広島県) 済美高等学校(愛媛県) 立川ろう学校(東京都) 富士森高等学校(東京都) 聖心学園中等教育学校(奈良県) 鳩尾高等学校(兵庫県) 黒石原支援学校(熊本県)  
11:50~	休憩

時刻	内容
12:40~	<p>出場チームによるパフォーマンス(後半10チーム)</p> <ol style="list-style-type: none"> 中央ろう学校(東京都) 真和志高等学校(沖縄県) 熊本豊学校(熊本県) 岡崎東高等学校(愛知県) 米子東高等学校(鳥取県) 三井高等学校(福岡県) 横浜南陵高等学校(神奈川県) 杏和高等学校(愛知県) 田嶋浜高等学校(石川県) 奈良県立ろう学校(奈良県) <p>審査員講評</p>  
14:45~	休憩
15:00~	「手話パフォーマンス きいろぐみ」によるステージパフォーマンス
15:25~	<p>審査発表/表彰式</p> <ul style="list-style-type: none"> 鳥取県聴覚障害者協会賞 日本財団賞 全日本ろうあ連盟賞 審査員特別賞 第3位 準優勝 優勝 <p>審査員長講評</p> <p>閉会あいさつ</p> <p>エンディング</p>  
16:00	閉会



開会式



主催者あいさつ

手話パフォーマンス甲子園実行委員会 会長

平井 伸治

今日は、佳子内親王殿下のご臨席を仰ぎ、全国各地の高校生の皆様をお迎えさせていただきました。本日ここに、私達鳥取県におきまして、第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園を開催することができました。県民にとりまして、無上の喜びでございます。本当にありがとうございました。

また、全日本ろうあ連盟石野理事長、日本財団吉倉常務理事、さらには、地元の鳥取県聴覚障害者協会下垣理事長をはじめとして数多くの皆様のご支援をいただきました。あわせて、伊木米子市長、渡辺米子市議会議長、さらには相田鳥取県議会議長はじめ、数多くの皆様方の大変なご支援をいただきました。感謝を申し上げます。

全国からよう来てごしました。今日は、全国の62の高校から厳しい激戦を乗り越えまして、20のチームが集まりました。おめでとうございます。

昨日申し上げましたとおり、鳥取県は現在、名前を改めて、蟹取県になっております。あの、引退をされました安室奈美恵さんも歌っていました。

カニ セレブレート♪ カニ キスマイト♪
そういう訳で、皆様も楽しんでいただきまして、晴れの舞台を、是非皆様の方で飾っていただきたいと思っております。

さて、国は、障害者差別解消法を施行いたしました。そして、国は、障害者差別解消法を施行いたしました。そして、国は、障害者差別解消法を施行いたしました。そして、国は、障害者差別解消法を施行いたしました。



「障がいを知り、共に生きる」

それを目指して、みんなで運動をしよう。そういうことがスタートし、現在までには、おおよそ43万人の方に、参加いただいているところでございます。その鳥取県では、手話言語条例も制定されました。今では200近い自治体が条例を作っています。皆様の方が世の中を変えていきます。是非、共に新しい時代を創りましょう。

ノーベル賞受賞が決まりました本庶先生がいらっしゃいます。先生の奥様は、滋子さんでいらっしゃいますが、この方は、鳥取県の倉吉市のご出身でございます。本庶先生はおっしゃっておられました。

「自分には無いものを持っている、そういう人達と出会うことで成長することができる。」

皆様も本日、数多くの仲間と出合いを果たします。皆様もますます成長し、そして、社会に手話を広げていく、そういう運動が前へ前へ、進むことになると思っています。皆様と共に「手話革命」を起こしたいと思っております。

今日は、本当におめでとうございます。そして、優勝を目指して頑張ってください。厳しい練習を積み重ねてこられた結果、皆様の夢を実現していただきたいと思っております。私達鳥取県民もカニと一緒に応援しています。どうもありがとうございました。だんだん。

佳子内親王殿下おことば

本日、「第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」が開催され、皆様にお会いできましたことを大変うれしく思います。

5年前の、平成25年に、鳥取県では、全国で初めての手話言語条例が制定されました。他の多くの地域でも、手話の普及に向けた様々な取り組みが行われています。昨年末には、国際連合により、9月23日を「手話言語の国際デー」と宣言する決議が採択されました。このように、手話に対する意識を高める活動に力を尽くしておられる方々に、心より敬意を表します。

今回の大会の予選には、これまでで最も多い62チームが参加しました。この大会の交流の輪が広がっていることを、大変喜ばしく感じております。

私は、この大会に出席するたびに、高校生の皆様が、熱意をもって手話パフォーマンスに取り組む姿に、深い感銘を受けてきました。

これから出場される皆様も、今日のために、日々、努力を積み重ねてこられたことと思います。様々な表現を工夫しながら舞台を作りあげたことや、仲間と共に目標に向かって頑張ることは、貴重な経験になったのではないのでしょうか。これから行われる一つ一つの舞台で、これまでの練習の成果を十分に発揮されることを、期待しております。

最後に、この大会を通して、聴覚に障がいのある方々と、大切な言語である手話に対する理解が一層深まるとともに、この大会が皆様にとって素晴らしい思い出となることを願い、開会式に寄せる言葉といたします。





開会式



特別協力団体あいさつ

一般財団法人全日本ろうあ連盟 理事長
石野 富志三郎

昨日の台風はとても心配しましたが、今日は秋晴れになりました。

さて、第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園、盛大に開催されますことに、心よりお祝い申し上げます。

ここ鳥取県が全国で初めて手話言語条例を制定してから早6年が経ちました。鳥取発の取組みは全国各地に大きな影響を与え、現在190の自治体で条例が制定されるまでになりました。手話言語の普及に伴い、この手話パフォーマンス甲子園のような様々な形での取組みが全国各地で行われるようになりました。

昨年12月19日には閣議総会において、9月23日を手話言語の国際デーとすることが決議されました。手話言語が国内だけでなくアジアや全世界へ広がっています。先日世界ろう連盟アジア地域事務局と日本財団の主催で東京において、手話言語の国際デー記念イベントを開催しました。私もパネリストとして参加いたしました。私もパネリストとして、手話言語が地域を変える、人を変えるということをお話させていただきました。今日、ロビーでも手話言語の国際デー記念イベントの当日の様子を展示しておりますので、ご覧ください。

さて、本日の本選に出場される皆さんもチーム一丸となって日々練習を積み重ねてきたと思います。手話はとても奥深く、手話表現は無限です。その魅力ある手話を使って、皆さんの力を合わせて、創りあげたパフォーマンス



を力の限り見せてください。その手話パフォーマンスは、観客の方々に感動を与え、根底にある手話言語への関心を高めてくれるはずで、鳥取県手話言語条例からはじまった手話言語を広める新しい取組みが広がることで、聞こえない人がいつでもどこでも自由に手話言語を使用でき、手話言語で様々なことが楽しめる豊かな社会が実現できます。皆さんのような若い世代からの手話による発信がこれからも続くことを期待しています。

最後になりますが、本大会の主催であります手話パフォーマンス甲子園実行委員会をはじめ、鳥取県、鳥取県障害者協会、そして日本財団の今後の益々のご発展と出場の皆様のご健闘を祈り、私の挨拶といたします。

特別協賛団体あいさつ

日本財団 常務理事
吉倉 和宏

今日は、佳子内親王殿下ご臨席のもと、このような素晴らしい会場で手話パフォーマンス甲子園が盛大に開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。また、この度ご挨拶の機会をいただきました手話パフォーマンス甲子園実行委員会の皆様にも心よりお礼申し上げます。そして、ここに集まった高校生の皆様、予選を勝ち抜き、ようこそ鳥取にいらっしゃいました。日頃の努力と皆様の磨かれた技に、心より敬意を表したいと思います。そして、皆様を支えて下さっているご家族の皆様、先生方、友人や先輩にも、感謝申し上げます。

私たち日本財団は、先ほどの平井知事からお話がありました「手話革命」を日本で起こしたいと、かねてより考えておりました。そのためにも、5国にわたって手話パフォーマンス甲子園を支援しております。近い将来、電車や飛行機に乗っても、スーパーでも、日本中どこでも手話を見かけ手話が使われる社会、そんな社会が来ることを目指しています。そのために、今回出場された高校生の皆様に、2つのお願いがあります。

まず1つ目は、今日は笑顔で全力を尽くしてパフォーマンスを演じて欲しいということです。これは、皆様の力を余すことなく発揮して欲しいというだけではありません。若い皆様には、多くの方々の感動、共感を呼び寄せる大きな力があります。今は実感が無いかもしれませんが、かつて高校生だった人達はその力を信じています。皆様の笑顔、ひたむきな努力が垣間見られる瞬間に、周囲に伝わ



る大きな力が発揮されます。多くの方々が、その力によって感動、共感すると共に、手話への理解、手話に対する関心を寄せてくれる、それが「手話革命」につながる第一歩だと思っています。

そして、2つ目のお願い。この手話パフォーマンス甲子園が終わってからも手話を続けて欲しいと思っています。この全国大会に出場したことで、皆様は手話の伝道師になったと信じています。この手話の伝道師の活動は、皆様が手話をしている姿を多くの方に見ていただき興味を持っていただくこと。この手話パフォーマンス甲子園が終わった後でも、40年、50年、60年と、皆様が手話をしながら、手話を伝えていく、手話を聴かせていく、そんな活動、暮らし方、生き方をして、伝道師を続けて欲しいと思っています。

今日は、この2つのお願いを高校生の皆様に申し上げます。これから披露される演技で全力を発揮され、この会場を皆で盛り上げ大きな力を共有し、笑顔で終えることができるよう願っています。皆様のご健闘を期待しています。



開会式

優勝旗返還

奈良県立ろう学校(奈良県)
中山 海人

昨年の第4回大会優勝チーム 奈良県立ろう学校の中山海人さんから、平井仲治鳥取県知事へ優勝旗が返還されました。代わって、平井知事から中山さんへ優勝旗が贈られました。



(昨年の第4回大会の表彰式)

選手宣誓

鳴尾高等学校(兵庫県)
津田 遙

私たちは第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園に結集し、それぞれの学校で知恵を出し合い、技能を高めた手話パフォーマンスをここで披露しあえる貴重な機会を得ることができました。

多くの方々のご支援やご協力に深く感謝するとともに、今日を全力で楽しみ、そして皆さんも楽しめるように頑張ります。

私たちが生きていくこれからの社会は、様々な個性や違い、考え方を認め合い、誰もが充実した人生を送ることができるような社会に必ずしたいと思えます。

そのためにも、たくさんの人々が出会い、コミュニケーションを取りながら理解し合うことが最も大切です。

手話という表現言語を通じて、大勢の人々がお互いに交流を深め、優しい社会を作る、大きなきっかけとなるように今日は全力を発揮することを誓います。

平成30年10月7日

兵庫県立鳴尾高等学校 津田 遙



出演者紹介

演技司会者



早瀬 憲太郎さん
ろう児対象の国語専門学習塾「早瀬道場」塾長。映画監督。元NHKみんなの手話講師。アリンピックサマスン2017 自転車競技日本代表。



中野 郁海さん
鳥取県出身。平成12年8月20日生まれ。AKB48チーム8鳥取県代表/チームK兼任。平成26年10月とっとりふるさと大使。平成30年6月鳥取県「とっとり未来キッズプロジェクト」の応援キャラクターに就任。

総合司会者



原田 裕和さん
NHK鳥取放送局チーフアナウンサー。岡山県出身。平成5年NHK入局。山口・広島・東京などを経て平成30年6月からNHK鳥取放送局勤務。

審査員



庄崎 隆志さん
演出家・俳優
審査員



小中 栄一さん
一般社団法人
全日本ろうあ連盟理事
審査員



貴田 みどりさん
女優・ダンサー
審査員



門 秀彦さん
絵かき
審査員



金沢 映子さん
舞台女優
審査員



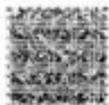
寺川 志奈子さん
鳥取大学
地域学部 教授
審査員

ゲストパフォーマー

手話パフォーマンス きいろぐみ

手話はろう者が生み出した美しい芸術。ろう者と手話の立場から多くの人に夢を叶え、合言葉に集まったろう者と聞こえる人のサインパフォーマンスグループ。





表彰結果

優勝

真和志高等学校(沖縄県)

- 演技タイトル / 「時をこえ ～今私たちができること～」
- 演技内容 / ダンス・演劇
- 審査得点 / 273点
- 演技順 / 12



準優勝

黒石原支援学校(熊本県)

- 演技タイトル / 「車椅子に乗って気づいたこと」
- 演技内容 / 演劇・ボエム
- 審査得点 / 256点
- 演技順 / 10



第3位

熊本聾学校(熊本県)

- 演技タイトル / 「笑う門には福来る ～熊ろう寄席～」
- 演技内容 / コント・落語
- 審査得点 / 251点
- 演技順 / 13



審査員特別賞

中央ろう学校(東京都)

- 演技タイトル / 「THIS IS ME」
- 演技内容 / ダンス・演劇・歌唱・アメリカ手話
- 演技順 / 11



全日本ろうあ連盟賞

立川ろう学校・富士森高等学校(東京都)

- 演技タイトル / 「情熱 ～伊能忠敬とリコの阿波踊り～」
- 演技内容 / ダンス・演劇・イリュージョン
- 演技順 / 7



日本財団賞

杏和高等学校(愛知県)

- 演技タイトル / 「おそそ仁王」
- 演技内容 / 狂言
- 演技順 / 18



鳥取県聴覚障害者協会賞

ノートルダム清心高等学校・広島南特別支援学校(広島県)

- 演技タイトル / 「広島県の私達が今、伝えたいこと」
- 演技内容 / 歌唱・演劇・ギター演奏
- 演技順 / 5





表彰内容

賞状



優勝、準優勝、第3位、審査員特別賞、全日本ろうあ連盟賞、日本財団賞、鳥取県聴覚障害者協会賞

優勝旗



副賞

- 優勝
「東京デイズニューリゾートギフトパスポート及び旅行券」
- 準優勝
「鳥取県の特産品の詰め合わせ」
- 第3位
「鳥取県の特産品の詰め合わせ」
- 審査員特別賞
「鳥取県の特産品の詰め合わせ」

全日本ろうあ連盟賞、日本財団賞、鳥取県聴覚障害者協会賞にも、それぞれ受賞チームへ副賞が贈られました。

盾



メダル



優勝、準優勝、第3位の選手全員に授与
(素材は鳥取砂丘の砂)

梨華賞



受賞チームを除く本大会出場チームに梨華賞を授与しました。

チーム演技



01 琴の浦高等特別支援学校 (鳥取県)

初出場

演技タイトル /

「つかむんだ 未来を！」

演技内容 / ダンス・メッセージ

メンバー人数 / 10人

動画はこちら



02 鳥取城北高等学校 (鳥取県)

4回目

演技タイトル /

「手話 de 大喜利」

演技内容 / 漫才・大喜利(なぜかけ)

メンバー人数 / 9人

動画はこちら





チーム演技

03 日本女子大学附属高等学校 (神奈川県)

初出場

■演技タイトル／

「オズの仲間たちが教えてくれたこと
～多様性が未来をつなぐ～」

■演技内容／人形劇・歌唱・語り

■メンバー人数／14人

▼動画はこちら



04 境港総合技術高等学校 (鳥取県)

5回目

■演技タイトル／

「おへそのあな」

■演技内容／演劇

■メンバー人数／19人

▼動画はこちら



05 ノートルダム清心高等学校 (広島県) 広島南特別支援学校 (広島県)

2回目

初出場

■演技タイトル／

「広島県の私達が今、伝えたいこと」

■演技内容／歌唱・演劇・ギター演奏

■メンバー人数／15人

▼動画はこちら



06 済美高等学校 (愛媛県)

初出場

■演技タイトル／

「恩送り」

■演技内容／歌唱・ダンス・演劇・ナレーション

■メンバー人数／12人

▼動画はこちら





チーム演技

07 立川ろう学校 (東京都) 富士森高等学校 (東京都)

■演技タイトル / 「情熱 ～伊能忠敬とリコの阿波踊り～」
 ■演技内容 / ダンス・演劇・イリュージョン
 ■メンバー人数 / 10人



08 聖心学園中等教育学校 (奈良県)

■演技タイトル / 「粉雪」
 ■演技内容 / ダンス
 ■メンバー人数 / 5人



09 鳴尾高等学校 (兵庫県)

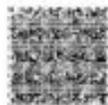
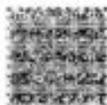
■演技タイトル / 「がんばれ がんばれ 手話パフォーマンス甲子園」
 ■演技内容 / 歌唱・ダンス・演劇
 ■メンバー人数 / 8人



10 黒石原支援学校 (熊本県)

■演技タイトル / 「車椅子に乗って気づいたこと」
 ■演技内容 / 演劇・ポエム
 ■メンバー人数 / 1人





チーム演技

11 中央ろう学校 (東京都)

3回目

■演技タイトル / 「THIS IS ME」

■演技内容 / ダンス・演劇・歌唱・アメリカ手話
■メンバー人数 / 4人

▼動画はこちら



13 熊本聾学校 (熊本県)

4回目

■演技タイトル / 「笑う門には福来る～熊ろう寄席～」

■演技内容 / コント・落語
■メンバー人数 / 5人

▼動画はこちら



12 真和志高等学校 (沖縄県)

5回目

■演技タイトル / 「時をこえ
～今私たちができること～」

■演技内容 / ダンス・演劇
■メンバー人数 / 13人

▼動画はこちら



14 岡崎東高等学校 (愛知県)

3回目

■演技タイトル / 「smile ～笑顔が人をつなぐ～」

■演技内容 / ダンス・短歌
■メンバー人数 / 8人

▼動画はこちら





チーム演技

15 米子東高等学校 (鳥取県)

初出場

■演技タイトル/
「**私たちが君の耳になる**」

■演技内容 / ダンス・演劇
■メンバー人数 / 12人



16 三井高等学校 (福岡県)

5回目

■演技タイトル/
「**True Colors ~九人九色~**」

■演技内容 / 歌唱・ダンス
■メンバー人数 / 12人



17 横浜南陵高等学校 (神奈川県)

3回目

■演技タイトル/
「**スマイル星人地球へ!**
~笑顔で心が通じる 笑いでみんなを幸せにしよう!~」

■演技内容 / 演劇・コント
■メンバー人数 / 12人



18 杏和高等学校 (愛知県)

4回目

■演技タイトル/
「**おそそ仁王**」

■演技内容 / 狂言
■メンバー人数 / 9人





チーム演技

19 田鶴浜高等学校 (石川県)

5位目

演技タイトル /

「自分の言葉で思いを表現できる社会の実現」

演技内容 / 歌唱・演劇

メンバー人数 / 6人

動画はこちら



20 奈良県立ろう学校 (奈良県)

5位目

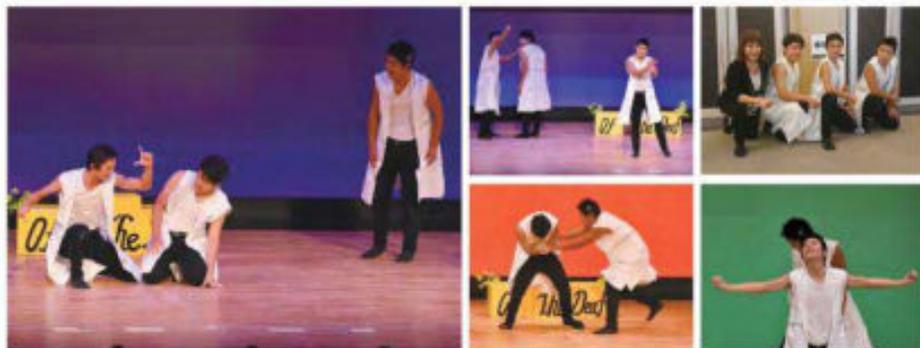
演技タイトル /

「Star Light」

演技内容 / 演劇

メンバー人数 / 3人

動画はこちら



ゲストパフォーマンス



手話パフォーマンス きいろぐみ

流行りの歌や手話ラップなど多彩な手話パフォーマンスをはじめ、来場者への手話レッスンなどで会場がひとつになりました。

動画はこちら



大会公式応援ソング

HANDSIGN
「この手で奏でるありがとう」

動画はこちら



第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 公式応援ソング

作詞：TATSU、SHINGO 作曲：中村泰輔





閉会式



審査員長講評

審査員長
庄崎 隆志

今回受賞された皆様、おめでとうございます。
第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園は、皆さん全員のお陰を持ちまして、無事終了することができました。台風で交通機関も乱れ、皆さんご心配だったと思いますが、無事開催することができました。台風の影響など関係なく、本当に皆様には素晴らしいパフォーマンスを見せていただきました。ありがとうございます。20チームの皆様は、レベルが高い、そして心のこもった見応えのあるパフォーマンスで、本当に最高のステージだったと思います。

優勝から第3位までの受賞理由を簡単に紹介させていただきます。

まず、優勝の真和志高等学校は、出演者一人ひとりが、手話表現、エイサー、踊りなど、様々な物を使い、本当にバランスよく協力し合いながら、観客席と舞台の垣根もなく、開放感のある演技が伝わってまいりました。本当に素晴らしい作品で、「命を守る」そのテーマにあわせたとても巧みな作品で、これは表現だけでなく、やはり演者の心が一つになった、それが私たちにとても伝わる舞台でした。

準優勝の黒石原支援学校は、今回こんな大舞台に一人ひとりで手話がエムをされた佐藤君。テーマが車いすに乗って気づいたこと。幕開けから、本当に内容が深く、色々な支障があっても負けずにチャレンジしていく、友達のお輪をどんどん広げていく、そんなことが伝わる本当に素晴らしい



い作品だったと思います。

第3位の熊本聾学校は、客席の皆様も大笑いでした。とてもチームワークのよい演者達でした。そして、舞台と客席が、何かキャッチボールをしているような空間でした。きっと大変な練習を積み重ねてこられて、本当に全身で表現してくださいました。

今回残念ながら受賞できなかった皆さんも、色んなことを発見していたり、また来年も、ぜひ、練習をして参加していただきたいと思います。

最後になりますが、今回新しい発見が色々あり、審査員長として、とてもうれしく思います。観客の皆様と舞台が一体となって、観客の皆様も本当にとてもいい表情でした。最初の不安な表情はどこへいったか、満足感のある甲子園だったと思います。

この素晴らしい手話パフォーマンス甲子園の益々の発展と継続を心からお願ひしたいと思います。そのためには、皆さん、それぞれの県で手話パフォーマンスの伝道師として頑張ってください。そうすると地域の聞こえない方々ともとてもうれしく思います。手話は言語であるということを、ぜひ広めてください。

本当に今日は素晴らしい大会となりました。関係者の皆様も、本当にありがとうございました。

閉会あいさつ

公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会 理事長
下垣 彰則

受賞されたチームの皆様、おめでとうございます。また、惜しくも受賞を逃されたチームの皆様も本当にお疲れ様でした。

会場の皆さん、今年の第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園はいかがでしたでしょうか。本大会出場場の20チームの皆さんが、この大会を目指し研鑽された演技、パフォーマンスを一生懸命披露してくださいました。私たちは、皆さんのパフォーマンスを見させていただきまして、本当に感動いたしました。この手話パフォーマンス甲子園は、聞こえない、聞こえないに関係なく、観る人の心に響くものだと思います。それによりまして、手話言語の魅力、そして素晴らしい、手話言語の必要性を社会に広げてくれるものだと思います。



第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の開催にあたり来賓の皆様をはじめ、審査員の皆様、ご来場の皆様、出演された高校生の皆様、そして関係者の皆様、本当にありがとうございました。来年の手話パフォーマンス甲子園で、また、皆さんとお会いできることを楽しみにしております。

以上をもちまして、第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園を閉会いたします。





会場の催し



多目的ホールホワイエ

1 手話カフェ
米子市にある手話カフェsign協力のもと開催し、無料ドリンクを提供しました。(手話や筆談などで注文)

2 高校生販売コーナー
地元鳥取県の高校生(倉吉農業高等学校・米子松蔭高等学校)による実習製品などの販売を行いました。

3 鳥取県聴覚障害者協会コーナー
大会共催者の(公社)鳥取県聴覚障害者協会によるオリジナルグッズなどの販売を行いました。

4 鳥取県手話サークル連絡協議会コーナー
鳥取県手話サークル連絡協議会による活動PR、また大山讃歌の手話歌体験などを行いました。

5 あいサポート・マルシェ
障がい福祉サービス事業所11店舗が出店し、飲食物などの販売を行いました。

6 郷土芸能ステージ
米子白鳳高等学校郷土芸能部による「淀江さんこ節」で来場者をおもてなしました。

7 協賛企業PRコーナー
大会に多大な協賛をいただいた企業・団体様のポスター・チラシ展示などをPRブースを設置しました。

情報プラザ

8 手話パフォーマンス甲子園公式グッズ販売
大会の記念に公式グッズを製作し、販売を行いました。

9 サテライト会場
臨場感あふれる大型スクリーン映像でステージの模様を上映しました。

10 ワークショップ
誰でも楽しめる3つのワークショップを実施しました。(Claraのアート体験、砂像色付体験、缶バッチづくり)

11 鳥取県のお土産販売コーナー
鳥取県の特産品やお土産の販売コーナーを設置しました。

12 鳥取県学校写真作品展
鳥取県学校の生徒が撮影した写真10点を展示しました。

エントランス

13 手話パフォーマンス甲子園PRコーナー
大会紹介及び第1回大会からの様子の子のパネル展示、また出場チームの学校パンフレットを展示しました。

14 総合案内
来場者へ会場の案内やスタンプラリーの受付、演目の貼り出しなどを行いました。

会場全体

スタンプラリー
会場内に設置された5つのスタンプを集めるスタンプラリーを開催し、達成した方に記念品を贈りました。

JR米子駅

おもてなしブース
県内外からの来場者の案内所としてJR米子駅におもてなしブースを設置し、大会の紹介や鳥取県の観光PRを行いました。



公式グッズ販売

大会の記念に公式グッズ(大会当日限定)を製作・販売し、多くの方にお買い物を楽しんでいただきました。



缶バッジ(各200円)



ピンバッジ(大会ロゴなど)(各500円)



3色ボールペン・シャープペン(各300円)



マブラータオル(各600円)



Tシャツ(1,000円)



ポロシャツ(各2,000円)



キーホルダー(400円)



フォトスタンド(鳥取砂丘の砂製)(500円)



ランドリーバッグ(各1,000円)



バリアフリー対策



障がいのあるなしに関わらず、誰もが楽しめる大会とするため様々なバリアフリー対策を行いました。

LEDスクリーン

ステージの様子について情報保障を行うため、広い会場などの席からも見やすくなるよう手話通訳・ライブ映像・要約筆記の3つの要素を1つの画面で表示できる大型のLEDスクリーンを配置しました。



音声コード

チラシ、プログラムなどの配布物に内容を音声で読み取りができる「音声コード」を添付しました。

情報保障用端末の貸し出し

ステージ上の要約筆記の内容を表示するタブレット端末を貸し出し、お手元でご覧いただきました。

音声ガイド

ステージの様子を実況しながら伝える「音声ガイド」を用意しました。

ヒアリングループ(磁気ループ)

ホール内にヒアリングループ(磁気ループ)が設置されていることを案内しました。

総合案内

総合案内に、手話通訳者を常駐配置しました。また、総合案内だけでなく会場内にも手話でコミュニケーションがとれる手話スタッフを配置しました。



インターネット動画配信

会場へ来ることのできない方も大会を楽しむことができるよう、インターネットでライブ配信(中継)を行いました。

ハートフル席(スペース)

観客席前方に約80席設置し、障がいのある方、車いすの方、歩行が大変な方などにご利用いただきました。

託児・救護室の配置

簡易ベッド付の救護室には、看護士を配置し、また、専門の託児スタッフのいる託児室を設置しました。

無料福祉タクシー

JR米子駅と会場間を結ぶ無料福祉タクシーを運行しました。



交流会

日時

平成30年10月6日(土)18時～20時

会場

ANAクラウンプラザホテル米子 飛鳥の間
(鳥取県米子市久米町53番2号)

出席者

約300人

- 手話パフォーマンス甲子園出演者
(出場チーム、審査員、司会など)
- 来賓
(国会議員、全日本ろうあ連盟、日本財団、
鳥取県議会議員など)
- 主催、共催者
(実行委員会委員、鳥取県、鳥取県聴覚障害者協会)

主催

手話パフォーマンス甲子園実行委員会

形式

立食ビュッフェ

次第

- 主催者あいさつ(平井 伸治 鳥取県知事)
- 乾杯(稲田 寿久 鳥取県議会議長)
- 出場チーム抱負
- 演技司会者からのエール
(早瀬 憲太郎さん、中野 郁海さん)
- マクロ解体ショー
- アトラクション(井崎 哲也さん)
- 審査員長からのエール(庄崎 隆志さん)
- 主催者あいさつ
(宮本 明明 手話パフォーマンス甲子園実行委員会
企画推進会議委員長)



会場の様子

皇室の御臨席

住子内親王殿下に御臨席をいただきました。



大会に出場する高校生と御歓談になる住子内親王殿下

アトラクション

井崎 哲也さん サインマイム

日本ろう者劇団(社会福祉法人トット基金の付帯劇団)
顧問。手話劇・サインマイムなどをとおして、ろう者の文
化を普及していくための活動を続けていらっしゃいま
す。今回は「鳥」をテーマにしたサインマイムで会場を盛
り上げていただきました。

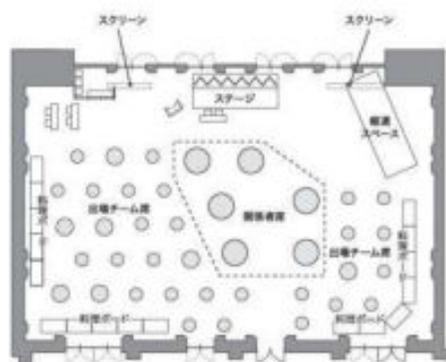


会場の様子



マクロ解体ショー(すなば珈琲提供)

配席図



多くの料理を提供



記念撮影をする高校生の皆さん



予選審査会



日時

平成30年8月2日(木)～3日(金)

会場

鳥取県庁(鳥取県鳥取市東町一丁目220番地)

審査員(4名)



審査員長 庄崎 隆志さん
演出家・俳優



審査員 小中 栄一さん
一般財団法人
全日本ろうあ連盟副理事長



審査員 門 秀彦さん
絵かき



審査員 寺川 志奈子さん
鳥取大学地域学部 教授

審査方法

各チームから提出を受けたパフォーマンス映像(3分以内)について、審査員4名により手話言語の正確性、演出力の観点から審査を行い、本大会に出場する20チームを選出しました。



審査結果は全国へ配信

8月3日(金)に、結果発表会及び本大会での演技発表順などの抽選を行い、その様子を全国に向けてインターネットにてライブ配信しました。



ライブ配信映像の様子

予選参加チーム(本大会出場チーム除く。)

第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園に向けて、28都府県から、62チーム(65校)の参加申込みがありました。※以下には、本大会出場チームを除く42チーム(43校)を掲載しています。

ブロック名	学校名
北海道・東北ブロック	●古川黎明高等学校(宮城県)
関東ブロック	●ふじみ野高等学校(埼玉県) ●熊谷高等学校(埼玉県) ●誠和福祉高等学校(埼玉県) ●西武台千葉高等学校(千葉県) ●青峰学園(東京都) ●大泉桜高等学校(東京都) ●潤徳女子高等学校(東京都) ●筑波大学附属 桐が丘特別支援学校(東京都) ●駒場高等学校(東京都)・坂戸高等学校(埼玉県) ●クワーク記念国際高等学校東京キャンパス(東京都)
中部ブロック	●唐新高等学校(福井県) ●身延山高等学校(山梨県) ●岐阜豊学校(岐阜県) ●掛川工業高等学校A(静岡県) ●掛川工業高等学校B(静岡県) ●熱海高等学校(静岡県) ●修文女子高等学校(愛知県) ●安城生活福祉高等専修学校(愛知県) ●桜花学園高等学校Aチーム(愛知県) ●桜花学園高等学校Bチーム(愛知県)
近畿ブロック	●八幡高等学校(滋賀県) ●京都八幡高等学校南キャンパス(京都府) ●日星高等学校(京都府) ●松原高等学校(大阪府) ●昇陽高等学校(大阪府) ●いぶき明生支援学校(兵庫県) ●社高等学校(兵庫県) ●六甲アイランド高等学校(兵庫県)
中国・四国ブロック	●鳥取聾学校(鳥取県) ●岩美高等学校(鳥取県) ●美作高等学校(岡山県) ●清水ヶ丘高等学校(広島県) ●城南高等学校(徳島県) ●鳴門高等学校(徳島県) ●尽誠学園高等学校(香川県) ●高松南高等学校(香川県) ●聖カタリナ学園高等学校(愛媛県) ●新田青雲中等教育学校(愛媛県)
九州・沖縄ブロック	●大和青藍高等学校(福岡県) ●神埼清明高等学校(佐賀県) ●平戸高等学校(長崎県) ●大分東明高等学校(大分県) ●陽明高等学校(沖縄県)



広報



● 広告など

- ・日本海新聞/記事体広告(3回)
- ・日本海新聞/うさぎの耳 1ページ(2回)
- ・日本海テレビ/大会PR番組 2分(2回)
- ・日本海テレビ/開催告知テレビCM 15秒(30回)
- ・日本海テレビ/情報番組「スパイス・カフェ」にて告知
- ・FM山陰/開催告知ラジオCM 20秒(5回)
- ・24時間テレビイベントでのPR



● チラシなど



● YouTube動画

※ 手話パフォーマンス甲子園☆動画チャンネルにて公開



● YouTubeでのライブ配信

(手話パフォーマンス甲子園☆動画チャンネル)



● HANDSIGN SCHOOL PROJECT

大会公式応援ソングを担当するHANDSIGNの二人が、大会開催地の鳥取県西部の高等学校を訪問し、トークショーや手話パフォーマンス体験を通して、手話及び大会のPRを行いました。

● ホームページ・SNS

公式サイトを開設。Facebook、twitter、LINE、YouTubeを活用し、大会情報などを随時発信しました。また、公式LINEスタンプを販売しました。

● ディスプレイ広告

山陰主要駅(鳥取駅、倉吉駅、米子駅、松江駅、出雲市駅)、協賛企業様の鳥取銀行、イオンの県内各店舗において、デジタルサイネージによる広告を行いました。





大会ダイジェスト番組

番組名



内容

第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園のステージの様子を中心に、「初出場枠」で出場を決めた琴の浦高等特別支援学校や、選手宣誓を行った鳴尾高等学校に事前取材を行い、大会の魅力、手話に対する思いをメッセージとして伝えました。また、番組の趣旨説明・ナビゲーターとして鳥取聾学校卒業生(第1回・第2回本大会出場者)の新井ほのかさんにも出演いただきました。

ナビゲーター 新井ほのかさん

放送日

日本海テレビ
平成30年11月4日(日)16時30分～17時30分



司会

TATSU (HANDSIGN)
手話を取り入れたダンスグループ「HANDSIGN」のヴォーカル・パフォーマー、第1回大会は審査員、第2回大会はゲストパフォーマーとして参加し、大会との縁も深い。
近藤 あずみ(日本海テレビアナウンサー)

レポーター

地元高校生が応援レポーターとして大会を同じ世代の高校生からのメッセージを視聴者へ伝えました。
・鳥取敬愛高等学校 2年 河口 真里奈さん
・湯梨浜学園高等学校 1年 鎌田 一伽さん
・米子北高等学校 2年 橋本 颯さん



告知(ダイジェスト版)放送

日本海テレビ
平成30年10月29日(月)22時54分～23時00分
平成30年10月30日(火)21時54分～22時00分



手話パフォーマンス甲子園実行委員会

実行委員会委員

役職	所属など	氏名(敬称略)
会長	鳥取県知事	平井 伸治
委員	一般財団法人全日本ろうあ連盟 事務局長	久松 三二
	日本財団 理事長	尾形 武寿
	公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会 理事長	下垣 彰嗣
	全国手話通訳問題研究会鳥取支部 支部長	澤田 敬子
	鳥取県商工会議所連合会 会長	藤縄 匡伸
	鳥取県教育委員会 教育長	山本 仁志
	鳥取県福祉保健部長	藤井 秀樹

監事

役職	所属など	氏名(敬称略)
監事	鳥取県立鳥取聾学校 事務長	上杉 郁子
	鳥取県会計管理局会計指導課長	古田 慎一

企画推進会議委員

役職	所属など	氏名(敬称略)
委員長	鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局長	宮本 則明
委員	国立大学法人筑波技術大学 教授	大杉 豊
	一般財団法人全日本ろうあ連盟 青年部長	吉田 航
	公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会 事務局長次長	戸羽 伸一
	鳥取県手話通訳士協会	森原 早百合
	全国手話通訳問題研究会鳥取支部	国広 生久代
	鳥取県手話サークル連絡協議会	田中 優子
	社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会 常務理事	野間田 憲昭
	鳥取県教育委員会 教育次長	尾羽 英樹
	鳥取県高等学校長協会 会長	田中 正士
	鳥取県私立中学高等学校長会 会長	佐伯 友茂
	鳥取県立鳥取聾学校 校長	三王寺 孝子

